

# 地盤調査報告書

(株)シンセイハウジング様 和光市南1丁目計画 様邸

2023年11月15日

キャピタルウッズ 株式会社

群馬県高崎市江木町1535

Tel 027-329-6070

Fax 027-329-6071

# 目 次

- 1．調査概要
- 2．調査方法概要
- 3．調査場所
- 4．調査敷地状況
- 5．調査結果
- 6．敷地概要調査・目視調査結果
- 7．スクリーウエイト貫入試験結果
- 8．換算N値柱状図一覧表
- 9．スクリーウエイト貫入柱状図一覧表
- 10．試験測点写真

# 1 . 調査概要

調査件名 (株)シンセイハウジング様 和光市南1丁目計画 様邸

調査場所 埼玉県和光市南1-10-54

調査年月日 2023年11月15日

調査目的 敷地内の代表される地点で下記内容の調査を行って、地盤の硬軟締まり状況等を判断し、予定構造物の基礎設計及び施工に関する資料を得るために実施した。

## 調査内容

### 1. スクリューウエイト貫入試験 : 5 ポイント

	調査深度	特記事項		調査深度	特記事項
1	5.94 m		6		
2	6.33 m		7		
3	6.27 m		8		
4	6.51 m		9		
5	6.46 m		10		

### 2. 地形地層調査・敷地内造成状況調査・目視観察状況調査

調査担当 キャピタルウッズ 株式会社

担当者 岡 孝尚

群馬県高崎市江木町1535

Tel 027-329-6070

Fax 027-329-6071

## 使用計算式

換算N値の計算式は、稲田式を採用しております。

$3W_{sw}+0.05N_{sw}$  (粘性土)  $2W_{sw}+0.067N_{sw}$  (砂質土)

許容支持力の計算式は住品協推奨式(式2.12.8)を採用しております。

$q_a=30W_{sw}+0.6N_{sw}$   $N_{sw}$ が150以上の場合150とみなしております。

N 値	砂の密度	N 値	粘性質土の硬さ
4以下	非常に粗い	2以下	非常に軟らかい
4~10	粗い	2~4	軟らかい
10~30	中くらい	4~8	中くらい
30~50	密	8~15	粘り強い
50以上	非常に密	15~30	非常に粘り強い
		30以上	硬い

## 2. 調査方法概要

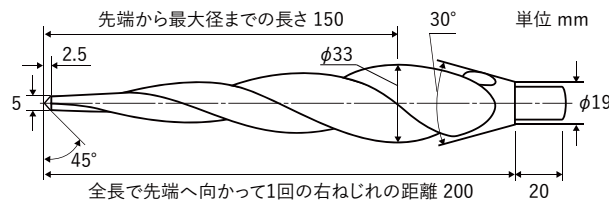
### <スクリーウエイト貫入試験 調査方法概要>

試験装置及び器具試験装置及び器具は、次の通りとする。

スクリーウエイト貫入試験の試験機は、スクリーポイント、ロッド、载荷・回転・引き抜き装置からなり、スクリーポイントにロッドを介して荷重を载荷したときの荷重と貫入量の関係、及び1kN{100kgf}の荷重で貫入停止後ロッドを回転させたときの、回転数と貫入量との関係が求められるものとする。

(1) スクリーポイントは鋼製で、図1に示す形状のものとする。

図1 スクリーポイント



(2) ロッドは鋼製とし、径は19mm±0.2mm、質量は2.0kg/m±0.5kg/mとする。

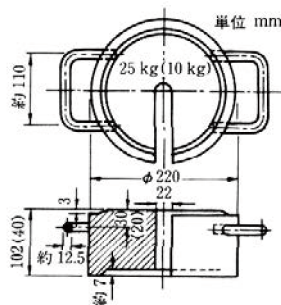
手動式および半自動式のロッドには、スクリーポイント先端から250mmに目盛を付け、その後、250mmごとに目盛を付けるものとする。

直線軸からのずれは1mm/m、ロッド結合部でのロッド中心からのずれは0.1mmを超えてはならないものとし、ロッドを繋いだ状態での隣り合う2本のロッドの角度のずれは、0.005radを超えないものとする。

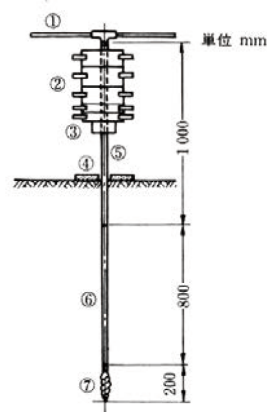
(3) 载荷装置は、手動式、半自動式、全自動式で以下のとおりとする。なお、荷重の許容誤差は、それぞれの荷重の値に対して±2%とする。

- (a) 手動式：おもりによって50N、150N、250N、500N、750N、及び1kNの荷重をかけることができるものとする。ただし、50Nはクランプの自重による。
- (b) 半自動式：おもり又はおもりと装置自重とを合わせたものによって、ロッドに50N、150N、250N、500N、750N、及び1kNの荷重をかけることができるものとする。
- (c) 全自動式：手動式と同等の荷重を機械的にロッドに自動でかけることができるものとし、荷重計などによる制御装置を用いて力をかけなければならないものとする。ただし、0N～1000Nの任意の荷重をかけることができるものであってもよい。

おもりの例



スクリーウエイト貫入試験 試験機の例 (手動式)



- ① ハンドル、② おもり、③ 载荷用クランプ、④ 底板、
- ⑤ 継ぎ足しロッド、⑥ スクリーポイント連結ロッド、
- ⑦ スクリーポイント

### 3 . 調査場所

使用地図：





## 5 . 調 査 結 果

調査の結果は、後に示す各種データ・記録に示す通りであるが、ここではこの結果をふまえて考察する。

### 敷地概要

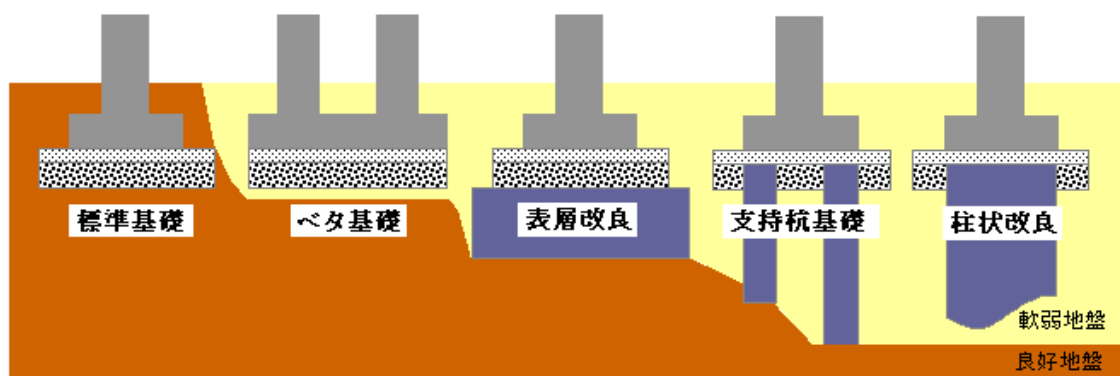
### 地盤状況

1 . 注意を要する軟弱地層の存在

有り

無し

### 基礎工法



## 6. 敷地概要調査・目視調査結果

### <地形地層調査チェックリスト>

周 辺 状 況	調査地の位置	山及丘陵地の裾地 坂の途中	山及丘陵地の中部 谷地	山及丘陵地の頂上付近 平坦地	その他( )	
	河川・用水路	調査地より(南 )の方向(170 )m付近に—河川 小川 水路 その他( )				
		調査地より( )の方向( )m付近に—河川 小川 水路 その他( )				
		調査地より( )の方向( )m付近に—河川 小川 水路 その他( )				
	周辺建物	あり なし	多い 少ない	なし	異常・障害	あり なし
	異常・障害 建築物概要	木造 鉄骨 RC 1F 2F( )F 戸建 集合住宅 事務所等				
		建築中 5年以内 5～10年程度 10年以上 その他( )				
		異常箇所(外壁 基礎 擁壁 塀) その他( )				
	路面状況	舗装あり なし 異常あり なし ( )				
		隣接地				
隣接地高低差						
調 査 敷 地	造成状況	新し	古い	不明	切土 盛土 切盛土 盛土の厚さ( ) m	
	地表面	平坦 起伏 傾斜地 雑草 土間コン アスファルト その他( )				
		敷地内高低差 なし あり ( ) m				
		礫 礫質土 砂 砂質土 粘性土 有機質土 黒ボク				
	含水状況	あり なし	不明	浅い 深い	多い 少ない	
	地下埋設物	あり なし	井戸	地下構造物	岩砕等	その他( )
	擁壁 (土留)	あり なし 間知ブロック RC ブロック その他( )				
		調査地より( ) m 水抜き あり なし				
	現在の状況	既存有り 造成更地 建物解体跡地 古くからの住宅地 原野 田 畑 資材置き場 駐車場 その他( )				
	既存建物	木造 鉄骨 RC 1F 2F( )F 戸建 集合住宅 事務所等				
建築中 5年以内 5～10年程度 10年以上 その他( )						
異常箇所(外壁 基礎 擁壁 塀) その他( )						
車両搬入	クラック(大 小 多 少) たわみ(大 小) 傾斜(大 小)					
	大型車 8 t 4 t ロング 4 t ショート 3 t 2 t 不可 進入路( ) m 前面道路(4.00 ) m 側溝(0.25 ) m 段差 擁壁 スロープ(急 緩) 電線 その他( )					
備考						















## 8. 換算N値柱状図一覽表

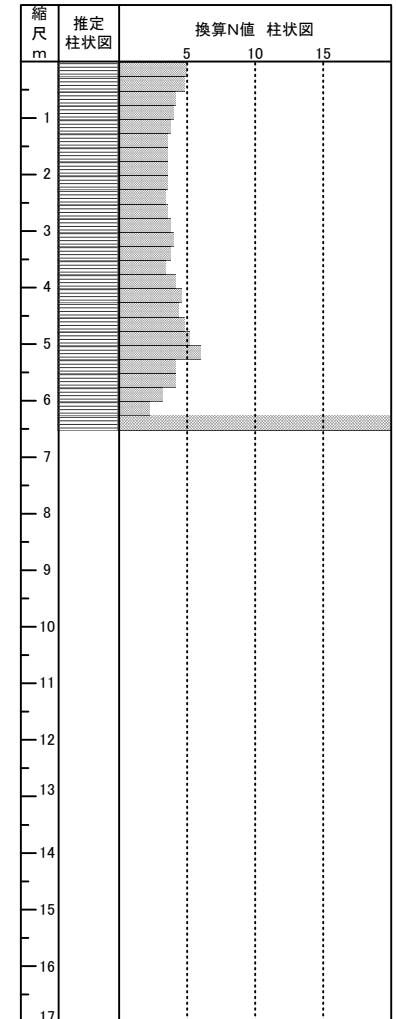
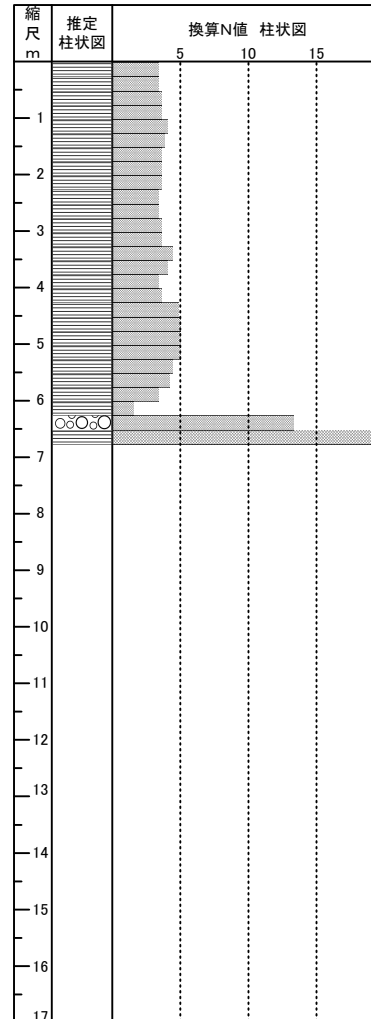
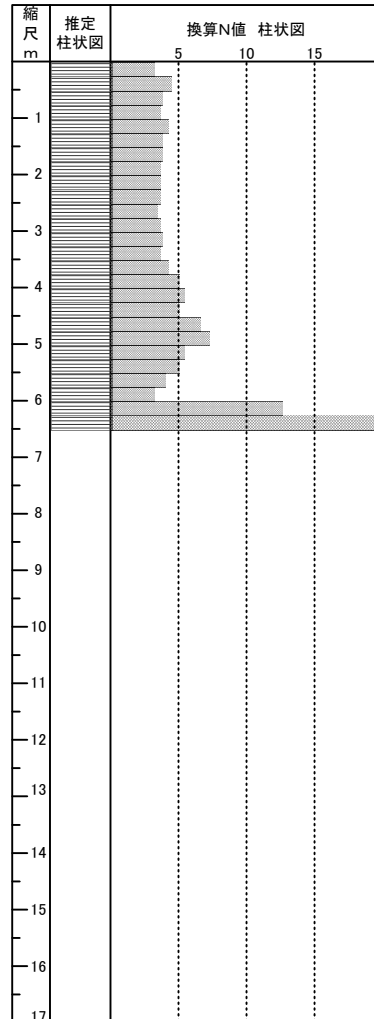
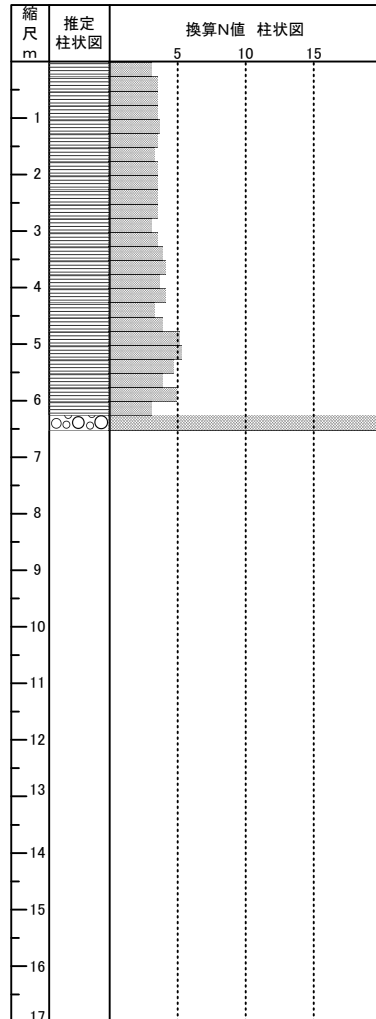
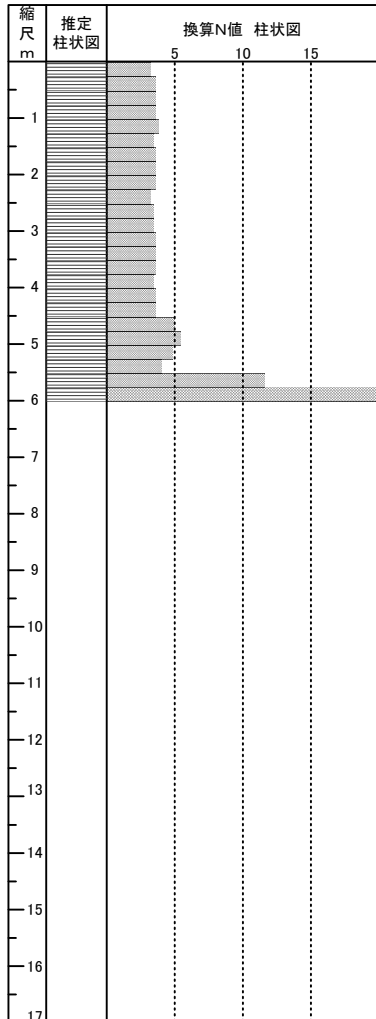
測点位置	1
最終貫入深さ	5.94 m
孔口標高	+0.07 m

測点位置	2
最終貫入深さ	6.33 m
孔口標高	+0.14 m

測点位置	3
最終貫入深さ	6.27 m
孔口標高	+0.16 m

測点位置	4
最終貫入深さ	6.51 m
孔口標高	+0.21 m

測点位置	5
最終貫入深さ	6.46 m
孔口標高	+0.10 m







# 10. 試験測点写真



前面道路



前面道路



全景



全景



KBM = ±0



スクリーポイント



# 10. 試験測点写真



測点1 検尺



測点2 検尺



測点3 検尺



測点4 検尺



測点5 検尺



スクリーポイント



# 10. 試験測点写真



周辺状況



周辺状況



周辺状況



周辺状況



周辺状況

